

# ≡ 会員からのこえ ≡

## 「退職後の生活」

退職後はとりあえずのんびりしたいと思い、自分の好きなことをする時間を取らせてもらいました。在職中は家事すべてを妻に頼っていたこともあり、お礼の意味も込めて家事手伝いをはじめました。いざ始めてみるとなかなかの重労働で、これを妻が毎日やってくれていたと思うと頭が下がる思いでした。そのこともあり感謝の意味も込めて感染状況を見ながら小旅行に行くことにしました。

これまでなかなかできなかった平日の旅行で、また久々ということもあり、妻は二人旅を楽しんでいたようです。旅行後には次はあそこに行きたい、ここに行ってみたいと楽しそうに話をしている姿を見て、よかったと思い、次回の旅行を計画し始めています。感染が落ち着いたらぜひ行ってみたいと思っています。

一方、1か月ほどすると生来の落ち着かない性格が頭をもたげ、何かお手伝いができる仕事があればと思い、それとなく探しはじめました。自分にできることを考えましたが、幸いにも子どもたちにかかわる仕事が見つかり、現在従事しています。障がいのある子どもたちですが、その日その日を楽しく過ごしている姿を見て、改めて人の役に立てる楽しさを感じるとともに、自分のこれからの生き方を考えることができたと思います。

感染が落ち着かない状況の中、これからも心配ですが、できる限り一日一日を少しでも楽しく過ごせればと思っています。

北村 正和

---

## 「菜の花に魅せられて」

東大阪市立八戸の里小学校を最後に教職員生活を終え、早や5年。ふと、テレビを観ていると、綺麗な菜の花が映っていた。退職をしてから、私立高等学校に入試広報の仕事でお世話になり、5年間忘れていた菜の花との出会いだった。

八戸の里小学校では、2月12日の「菜の花忌」に向けて、子どもたちが菜の花を育てていた。普通ならもう少し遅く咲く菜の花だが、品種改良を加えて、2月初旬に咲く品種を植えているらしい。「菜の花忌」とは、司馬遼太郎氏の命日である2月12日に、司馬遼太郎記念館（八戸ノ里駅近くにある）でおこなわれている行事。当日は、司馬遼太郎氏が大好きだった菜の花が彼の冥福を祈るかのように、八戸ノ里駅近くは勿論、東大阪市全体に咲いている。久し振りに、素晴らしい菜の花に出会ってくることにした。皆さんも是非一度、訪れてみてください。感動すること、請け合いです…。

塩尻 文男

---

## 「退職後の生活を楽しむ」

再任、非常勤を終え今年の4月家庭に入った。40数年「先生」と呼ばれていたためか日常の生活も多少の緊張感があった。退職後は精神的に解き放たれた喜びを味わっている。

一方で書類の職業欄に「無職」と記載する時の何とも言えない違和感は一切何なのだろうか。「確かに無職だ」十分に仕事をやり遂げた満足感があり、老後の生活を満喫しようと思っているのに、何故かザワザワする感情が湧いてくる。年月が経てばそんな気持ちも無くなるのだろうが、まだ、慣れない。

先輩方の退職後の活躍を見たり聞いたりする。私には何ができるのかと考えたが特技もなく、取りあえず長年の夢であった着付けの学びなおしを始めた。呉服屋の娘であった祖母の影響で着物が好きだ。しかし、若い頃とは違い腕が背中まで十分回らないし、お稽古での長時間立ち続けには厳しいものがある。また、最大の問題は両親に作ってもらった着物はしつけ糸がついたままで色柄も可愛く、更には横に成長しすぎた私には合わない。縫い直しや染め直しをお願いしている。私の中でのSDGsである。現役中は叶わなかった着物生活を満喫するために今後も体調を整え、足腰が衰えないように自己管理しコロナに負けず楽しく過ごしていきたい。

山口 加津子